



1_ミニシャベルを操縦して水に浮かんだ景品をすくう 2_「こどもきこり市場」で丸太切り体験を楽しんだ 3_大人気の林業機械のラジコンに夢中 4_木工プレートづくりや、たたき染めなどのワークショップも充実

標高1,000mに1,000人が来場 山の楽しさを体感した2日間

林業を楽しく学ぶ体験型イベント「ワンツーツリーフォレスト」(同実行委員会主催)が8月19・20の両日、ソルファ・オダスキーグレンデで開かれました。今年で6回目となる人気の催しで、2日間で約1,000人が来場。木を切って市場に出す流れを疑似体験する「こどもきこり市場」や、グラッブルでの丸太積み体験、伐採見学など楽しく林業を学べる催しがいっぱい。林業機械の展示や実演会などの新しい取り組みもあり、訪れた親子連れなどが森での楽しいひとときを満喫しました。

今回で3回目の参加となる水田姫咲さん(小学4年)＝松山市＝は「家族で森を探検したり、廃材で本棚を作ったりして楽しかった。自然や木と触れ合える大好きなイベント。来年も遊びに来たい」と目を輝かせました。実行委員長の武田惇奨さんは「初年度から目標としていた来場者数1,000人を超え、喜びもひとしお。森で楽しい思い出をつくってもらうことで、林業が将来の選択肢の一つになればという思いで続けてきた。今後も内容を充実させ、林業の魅力を伝えていきたい」と語りました。



たいまつ炎が幻想的に参加者を照らす

たいまつ炎に豊作願う 五十崎の夏の風物詩「虫送り」

五十崎地域の柿原地区や上宿間地区などに伝わる「虫送り」が8月21日、小田川の周辺などで行われました。この行事は火を灯したたいまつを持って虫を追い払い、その年の豊作を願います。上宿間地区では約45人が集まり、鐘や太鼓を鳴らして田んぼのあぜ道などを練り歩きました。区長の宮下孝さんは「これからも地域みんなで協力して伝統行事をつないでいきたい」と話しました。

モザイクタイルで自由にデザイン 「なつやすみものづくり体験教室」

「なつやすみものづくり体験教室」(内子・城廻地区愛護班連絡会主催)が8月24日、内子自治センターで開かれ、小学生15人が参加しました。ものづくりマイスター・窪中司さんの指導で、子どもたちは約1.5角のタイルを板に貼り付けたタイルアートを制作。達見清香さん(内子小6年)は「好きなタイルを選んで並べるのが楽しい。工夫してかわいくできた」と笑顔で話しました。



自分の名前や好きな絵柄をタイルで表現

夏の暑さと爽やかな小田川を堪能 恒例の「元氣わくわく川まつり」

「元氣わくわく川まつり」(同実行委員会主催)が7月23日、豊秋河原で開かれました。町内外の子どもたち82人が参加し、生き物の絵が描かれた石を川に入って探す「ぞぶりんぐ」や水生生物観察、ゴムボート体験などで夏の小田川を満喫しました。実行委員会事務局長の小野里枝美さんは「川とゆっくり触れ合う時間をつくって、川遊びの楽しさも危険も知ってほしい」と話しました。



川の水はひんやりとして気持ちいい

大学生と一緒に演劇づくり 地域への理解を深める6日間

内子町と連携協定を結ぶ四国学院大学の演劇ワークショップが7月24日から29日、文化交流センタースバルで開かれました。同大学の演劇コースの学生が小田分校生や小田小の児童らとともに、地域に伝わる登貴姫伝説などを題材に劇を創作。最終日に小田燈籠まつりで披露しました。武田蒼良さん(小田分校3年)は「創作活動を通して小田の魅力を再発見できた」と感慨深げでした。



芝居とダンスを組み合わせた演劇を練習

山村で楽しむオリジナル和紙作り 「木から紙を作るワークショップ」

「木から紙を作るワークショップ」が8月に開かれ、延べ16人が参加。宿泊型の体験は11・12の両日、うちこ山村クラフト研究所などで行われ、参加者が原料となるコウゾやミツマタの採取から紙漉きまでの一連の作業を体験しました。親子で訪れた鈴木和美さん＝松山市＝は「小学生の娘たちも紙ができる過程がよく分かり、いい自由研究になったと思う」と振り返りました。



昔ながらの紙漉き作業を親子で体験

学芸員と考える民族資料の生かし方 民具を使ったワークショップを開催

歴史民俗資料館の「学芸サポーター養成講座」が8月11日、内子自治センターで開かれ、23人が参加しました。講座では実際の民具を使い、今後の活用方法について学びを深めるワークショップを実施。講師の大本敬久さん(県歴史文化博物館・専門学芸員)は「民具には使ってきた人の思い出が詰まっている。長い歴史や先祖の知恵を次世代につないでほしい」と呼びかけました。



背負子の使い方を説明する参加者